

日本棋院八碁連支部 令和 4 年度の支部活動報告

常任幹事 南 正一郎

関東甲信越静地区の支部代表者懇談会が令和 5 年 3 月 17 日に 3 年ぶりに開催されました。その席上で八碁連支部は「支部会員増 10 傑」の全国第 8 位となり表彰されたことをお伝えします。皆さんにご協力頂いた結果であり感謝致します。

令和 4 年度の日本棋院の活動状況は、全国での囲碁イベントは着実に実施されるようになり、以前の状態に少しずつ戻っているようですが、会員総数は 18,569 名(ネット会員除く)で 2 年連続で 3,000 名超の減少という非常に厳しい状況にあり、同時に普及活動の最前線である支部数も前年比 33 減の 476 支部(支部会員 8,391 名)に減少しており、日本棋院の更なるテコ入れが急務となっています。

プロ碁界では、年初の棋聖戦で一力遼九段が井山裕太棋聖の 10 連覇を阻止して初の棋聖位を獲得し、秋の名人戦では芝野虎丸九段が井山名人を降しタイトルを獲得、12 年ぶりに七大タイトルが 5 人の棋士に分散するという戦国時代の様相を強めています。女流碁界も藤沢里奈、上野愛咲美の 2 トップが牽引していますが、13 歳の最年少で女流棋聖位に就いた仲邑菫三段、初タイトルを獲得した牛栄子扇興杯など層の厚さで鎬を削り、楽しませてくれています。

次に八碁連支部の状況について報告します。

令和 4 年度の大会については、7 月に予定していた第 7 回級位認定囲碁大会及び 8 月に予定していた第 2 回ペア碁大会はコロナ禍により中止しました。11 月には幸いにしてコロナ禍も小康状態になり、八碁連大会と同時開催で熊丰七段、知念かおり六段の指導碁を開催し、24 名の方が参加されました。知念かおり六段からは前年に続き感想文を寄せてい



ただき、「八碁連だより」令和5年1月号に紹介いたしました。また、吉澤實八段、三島敏明七段、藤森力七段を講師とする囲碁研究会を月2回のペースで18回実施しました。尚、当研究会の生みの親でもある吉澤實八段が昨年11月4日にご逝去されました。感謝とともにご冥福をお祈り致します。

令和5年度の計画につきましては、池田正三新支部長のもと、例年どおりの「級位認定囲碁大会」「ペア碁大会」、八碁連大会と同時開催で「指導碁会」を計画します。冒頭に記した「会員増第8位」によるプロ棋士1名の報奨派遣も利用します。囲碁研究会については、会場の東浅川保健福祉センターの改装工事の絡みもあり、時期を見て皆さんと相談させていただきます。

また、前年に引き続き日常の取り組みとして次のことを考えています。

- ・ 日本棋院会員への入会と既会員の支部会員への移行
- ・ ネット碁の「幽玄の間」会員や「情報会員」への入会と支部への登録（支部会員である制約なし）を奨めて行きます。これらは支部への普及協力金額やポイント数等の特典として跳ね返って来ます。現時点での普及協力金は年額で約23,000円であり、支部の活動資金となっています。支部ポイントは230ポイントで、これによりプロ棋士1名の特別派遣が可能となっています。

日本棋院の月刊誌「碁ワールド」は「囲碁未来」の廃刊後、級位者から段位者まで幅広く楽しめる内容になっています。入会され購読されることをお勧めします。終わりに、平成5年度の総会議案については、宮崎八碁連会長(兼支部長)により、3月31日付けの書類決済としました。総会資料や入会手続き等についてご希望の方はご連絡下されば送ります。

(令和5年4月5日)